

資料5 関連 追加提出資料

- 番号 21101 令和7年度三重県立看護大学一般選抜（前期日程）の個別
学力検査科目「外国語」における表記誤りについて・・・1
- 番号 21101 令和8年度三重県立看護大学特別選抜の基礎学力検査科目
「数学」における条件設定の不備について・・・・・・・・・・2
- 番号 71101 自己点検・評価の実施項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

令和7年度三重県立看護大学一般選抜（前期日程）の個別学力検査科目「外国語」における表記誤りについて（詳細報告）

1 内容

(1) 経緯

令和7年9月22日（月）、出版社からのメールにより、一般選抜（前期日程）の「外国語」において、語句選択問題の正解解答の選択肢に表記誤りがあったことが判明しました。

これを受け、学内で当該設問の取扱い等について検討するとともに、令和6年度に実施した令和7年度特別選抜及び一般選抜の試験問題全体について、改めての点検を行いました。

他の問題に誤りがなかったことを確認したうえで、学内会議において、当該設問について選択肢に正しい解答が存在しないとの判断により、受験者全員（157名）を正解として採点をやり直すことを決定しました。

その結果を踏まえて、10月20日（月）に改めて合否判定の審議を行った結果、4名の方を新たに合格者といたしました。

(2) 表記誤りの内容

個別学力検査 外国語 問6 設問2 [4]

【問題】

本文中の [①] ~ [④] に入る最も適切なものを、それぞれア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

正) ア. Additionally イ. Eventually ウ. Nevertheless エ. Therefore

誤) ア. Additionally イ. Eventually ウ. Nevertheless エ. Therefore

※表記誤りのあった「ウ. Nevertheless」は正解の選択肢

(3) 原因

入試問題は、教科ごとに置いている作問担当者と補助者が中心となって作成しており、その過程では、複数回の検討会と点検担当者による点検を行っています。また、印刷業者との間でも複数回の校正を行っています。しかしながら、複数回にわたる点検の過程のいずれにおいても、誤りを発見することができませんでした。

2 新たな合格者への対応

受験者本人及び保護者に対し電話にて謝罪と経緯説明を行いました。現在、個別訪問を行い、改めて謝罪と経緯説明を行うとともに、今後の対応についてご相談させていただいています。また、本学に入学していれば発生しなかった費用等については、一人ひとりのご事情を考慮したうえで経済的な補償を行うとともに、本学へ入学を希望される場合は学修支援を行うなど、誠意をもって対応をしております。

3 再発防止策

今後は、問題作成、印刷の校正、完成原稿の確認、解答の作成の各段階における確認を一層徹底します。また、文書作成ソフトのスペルチェック機能の活用をはじめとするデバイス上での確認作業や、試験終了後の再点検など、これまでとは異なる角度での点検を検討し、再発防止を徹底してまいります。

令和8年度三重県立看護大学特別選抜の基礎学力検査科目「数学」における条件設定の不備について

1 内容

(1) 経緯

令和7年11月15日に実施した令和8年度特別選抜の基礎学力検査科目「数学」の問題解釈等について学外から質問があり、大学で改めて点検を行ったところ、問題文の条件設定について、出題者の意図が正しく伝わらず、受験生に誤解を与える可能性があるとして判断しました。この結果を踏まえ、公平性を確保する観点から当該問題を全員正解として採点を行いました。

なお、合否発表の結果に影響はありません。

(2) 条件設定不備の内容

【該当箇所】 数学 問2 (1) の手順 (iii) ※以下、問題文全文

問2 次の(1), (2)の問いに答えなさい。答えは解答欄に解答のみを記入しなさい。

(1) 一般に、男子の出生率のほうが、女子の出生率を上回ることが知られている。この主張が正しいことは、以下の(i)～(iv)の手順で行う手法で示される。

- (i) 判断の基準となる確率(有意水準)を0.05と決めておき、0.05より小さい確率をもつ事象は、ほとんど起こりえないものとする。
- (ii) 「男子と女子の出生率が同じである」という帰無仮説を H_0 とし、「男子の出生率が、女子の出生率を上回る」という対立仮説を H_1 とする。
- (iii) H_0 が正しいとき、 n 年間続けて男子と女子の出生率が同じという事象が起こる確率を P_n とする。
- (iv) P_n が、有意水準0.05より小さければ、ほとんど起こりえない事象が起こったことになり、そもそも H_0 が正しくなかったと考え、 H_0 を否定して(棄却)、 H_1 を正しいと判断する。

- ① 上の手法を何というか。また、確率 P_n を n の式で表せ。
- ② (略)
- ③ H_0 を棄却できる最小の正の整数 n の値を求めよ。

(2) 略

【設問の取扱い】

問2(1)のうち、①の後半(確率式を求める設問)および③について解答するにあたり、(iii)の条件設定では出題者の意図が正しく伝わらず、受験生に誤解を与える可能性があり、解答の導出に影響があると判断し、公平性を確保する観点から全員正解として採点を行いました。

2 本件発生の原因

入試問題の作成においては、作問の意図や想定解法を踏まえ、複数回の検討会と点検担当者による点検を行っています。

これに加え、令和7年度一般選抜前期日程の「外国語」における表記誤りを受け、各段階でのチェックを一層徹底するとともに、試験当日においてもチェックを行いました。

しかしながら、結果として、該当問題に関する改めての点検を実施するまで気づくことができませんでした。

3 再発防止策

各段階における確認の一層の徹底はもとより、問題の内容について正答が導き出せるか、想定解法以外の解答方法が存在しないかなど、多角的な視点での点検を実施します。また、点検時のポイントについてチェックシートを作成し、点検作業を標準化することで、確認漏れの防止に努めます。

自己点検・評価の実施項目

項目	評価の観点	年度計画管理表 の対応項目	担当部門
アドミッション・ポリシー	中教審ガイドラインに沿って策定している	21101 21103	入試委員会 研究科入試小委員会
	入学者選抜はアドミッション・ポリシーを反映した方法で実施している	21101 21103	入試委員会 研究科入試小委員会
	入学者選抜の結果について、入学した学生がアドミッション・ポリシーに見合う適正を有しているか検証し、その結果を改善に繋げている	21101 21103	入試委員会 研究科入試小委員会
	公平、公正な選抜試験が実施されている	21101 21103	入試委員会 研究科入試小委員会
ディプロマ・ポリシー	中教審ガイドラインに沿って策定している	21104 21106	教務委員会 研究科教学小委員会
カリキュラム・ポリシー	中教審ガイドラインに沿って策定している	21104 21106	教務委員会 研究科教学小委員会
	教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づいて体系的に構成されている	21104 21106	教務委員会 研究科教学小委員会
学修成果の把握	教育目標に対する学修の到達状況について、学生が継続的に自己評価できる体制が整えられている	21104 21107	教務委員会 研究科教学小委員会
	卒業生の就職先から教育プログラムの評価を受け、結果を教育課程の改善に繋げている	21104	教務委員会

項目	評価の観点	年度計画管理表の対応項目	担当部門
成績評価基準	成績評価基準が明確に定義され、周知されている	21105 21107	教務委員会 研究科教学小委員会
	各科目の到達レベルが明示されている	21105 21107	教務委員会 研究科教学小委員会
	各科目の到達度を測る評価方法が明示されている	21105 21107	教務委員会 研究科教学小委員会
	評価は学生へフィードバックされ、学生の疑問・不服等を把握できる体制がある	21105 21107	教務委員会 研究科教学小委員会
授業評価	授業内容や教育方法について学生による満足度評価（授業評価）を組織的に行っている	21201	F D委員会
	授業評価の結果を公表するとともに、授業の改善に繋がっている	21201	F D委員会
	授業評価の結果をはじめとした学生や教員からの授業等への意見を教育課程の改善に繋がっている	21104 21106	教務委員会 研究科教学小委員会
学修支援	学生アンケート等の実施を通じて学生のニーズ把握、分析し、学修環境の改善に繋がっている	21301	学生委員会
	学生の休退学の状況を組織的に把握し、必要な学修支援に繋がっている	21104	教務委員会
	国家試験の合格率は適切である。不合格者への支援が適切に行われている。	21301	教務委員会